D00998700A

MP-BT1

MP3 Bass Trainer

取扱説明書

目次

このたびは、TASCAM MP-BT1をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、十分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。

本機はフラッシュメモリー（1GB）を使用した音楽プレーヤーで、ギタリストの練習用として最適です。通常の再生で聴き取れないようなフレーズでも、本機を使ってゆっくり再生することにより、容易に聴き取ることができます。また内蔵エフェクタと接続できるベース専用入力端子を装備していますので、再生する音楽に合わせてベースを演奏することができます。なお楽曲は、オーディオCDなどをいったんパソコンに取り込んでから本機に転送（コピー）して使用します。

付属品

- USBケーブル　1
- クイックスタートガイド　1
- 保証書　1

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、お買い上げの販売店までご連絡下さい。

電源について

本機は内蔵のリチウムイオンバッテリー（または別売のACアダプター）で駆動することができます。このバッテリーは、USB接続したパソコン（または別売のACアダプター）を使って充電することができます。お買い上げ時、このバッテリーは十分に充電されていません。ご使用の際はあらかじめバッテリーを充電しておくか、あるいはACアダプターを接続してください。

なお、バッテリーの持続時間は約８時間になります。

バッテリーを充電する

- パソコンを使って充電する：

  付属のUSBケーブルを使って本機の**USB**ポートとパソコンのUSBポートを接続して下さい。

  パソコンの電源がオフでUSBポートに通電されていないと充電が出来ませんのでパソコンの電源を入れでください。

  パソコンと本機は直接接続してください。USBハブを経由した場合の動作は保証でききません。

  充電時間はおよそ６時間です（本機の電源オフで充電時）。

  パソコンから充電中に本体の電源を入れると自動的に本機がUSB接続モードになります。（→7ページ「パソコンを接続する」）

- 別売のACアダプター（PS-P520）を使って充電する：

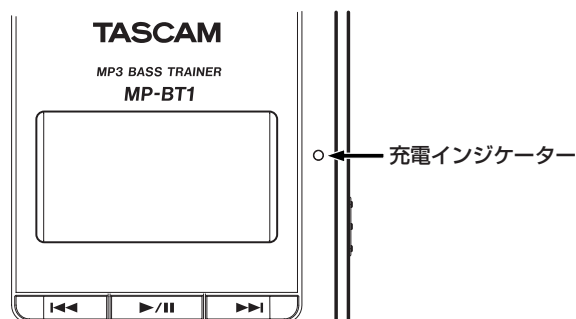
  別売のACアダプターを本機の**DC IN 5V**端子に接続します。

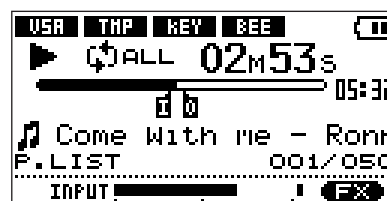
  充電時間はおよそ３時間です。

  ACアダプター接続中は、充電しながら本機を使用することができます。

また、充電時の本機の電源オン／オフ状況で充電時間は変わりません。

メモ

充電中はディスプレイの右にある充電インジケーターがオレンジ色に点灯します。フル充電されると消灯します。

電源を入れる

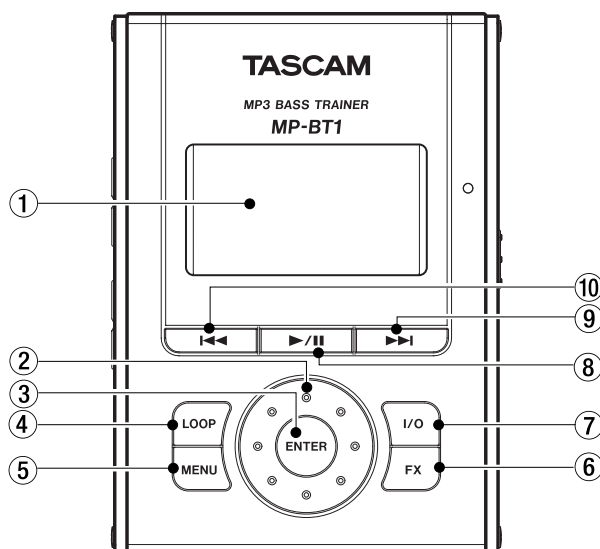
本機の**POWER**キーを矢印の方向にスライドしたままにし、画面に“TASCAM”が表示されたら離します。本機が起動してホーム画面が表示されます。

電源を切るには：

POWERキーを矢印の方向にスライドしたままにし、画面に“Trainer series”が表示されたら離します。

アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より１年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
  - 型名、型番（TASCAM MP-BT1）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名

第2章　各部の名称と機能

トップパネル

① ディスプレイ（LCD）

ホーム画面の表示や、メトロノーム使用時、メニュー設定時、エフェクト設定時にはそれぞれの画面を表示します。（→6ページ「ホーム画面」）

② ホイール

メニューやエフェクトの操作時、項目を選択したり設定値を変更するときに使います。

③ ENTERキー

メニューやエフェクトの操作時、選択を確定するときに使います。確定すると次の画面階層に進みます。

④ LOOPキー

このキーを押すと、希望の区間を繰り返し再生するループ再生モードに入り、ディスプレイ上にLOOPアイコンが表示されます。（→15ページ「ループ再生する」）

もう一度押すと、ループ再生モードが解除されます。

⑤ MENUキー

ホーム画面表示中にこのキーを押すと、メニュー操作画面になります。

メニューやエフェクトの操作中にこのキーを押すと、手前の階層の画面に戻り、最終的にホーム画面に戻ります。

⑥ FXキー

このキーを押すとエフェクト操作画面になります。エフェクト画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります。

⑦ I/Oキー

希望の区間をループ再生させるときの「始点」（IN点）と「終点」（OUT点）を設定します。

「始点」と「終点」を設定しているときにこのキーを押すと、「始点」と「終点」がクリアされます。（→15ページ「ループ再生する」）

⑧ ▶/❚❚キー

停止中に押すと、再生を始めます。

再生中に押すと、その位置で停止します。

メトロノーム画面表示中はメトロノームのスタート/ストップを行ないます。

⑨ ▶▶❙キー

押すと次の曲にスキップします。

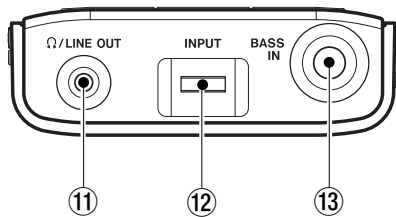
押し続けると早送りサーチを行ないます。

⑩ ❙◀◀キー

再生中あるいは曲の途中で停止しているときに押すと、曲の頭に戻ります。

曲の頭で停止しているときに押すと、手前の曲にスキップします。

押し続けると早戻しサーチを行ないます。

フロントパネル

⑪ Ω ／LINE OUT端子

ヘッドホンを接続するための端子で、再生信号やベース入力信号を出力します。

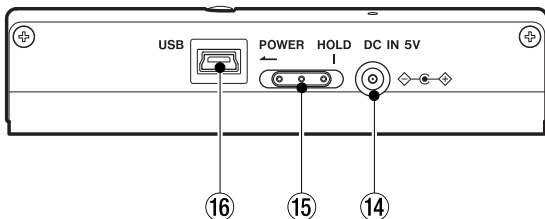
ヘッドホンだけではなくライン出力端子としても使用できます。

⑫ INPUTボリューム

BASS IN端子の入力レベルを調整します。

⑬ BASS IN端子

ベースを接続します。

右サイドパネル

⑭ DC IN 5V端子

ACアダプター（別売りのTASCAM PS-P520）を接続します。

⑮ POWERスイッチ

矢印方向（左）にスライドし続けることにより、電源のオン／オフを行ないます。

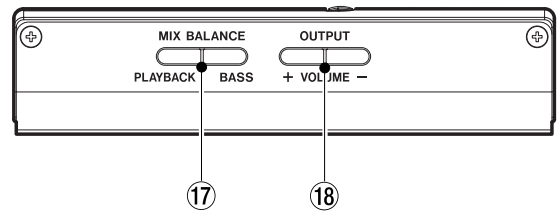
右にスライドしておくとホールド機能が働きます。ホールド中はすべてのキー操作を受付けません。

⑯ USBポート

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続するためのUSBポートです。

注 意

パソコンとの接続はUSBハブを経由せずに、直接接続してください。

左サイドパネル

⑰ MIX BALANCE（BASS、PLAYBACK）キー

BASS INから入力されるベースの音量と楽曲再生音のバランスを調節します。調整中、バランス状態がディスプレイ下部に表示されます。

BASS側のキーを押すとベースの割合が増し、PLAYBACK側のキーを押すと楽曲再生音の割合が増します。

なお、メトロノーム再生中は、ベースとメトロノームのバランスを調整し、PLAYBACK側のキーを押すとメトロノームの割合が増します。

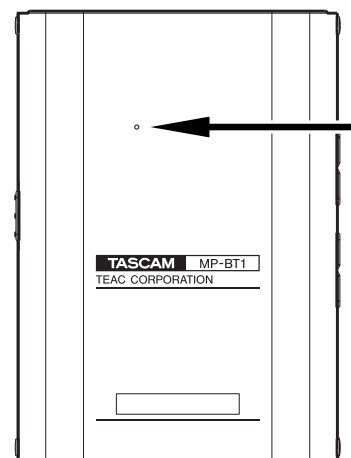
⑱ OUTPUT VOLUME（+、−）キー

Ω ／LINE OUT端子から出力される信号のレベルを調整します。

調整中、ボリューム位置がディスプレイ下部に表示されます。

バックパネル

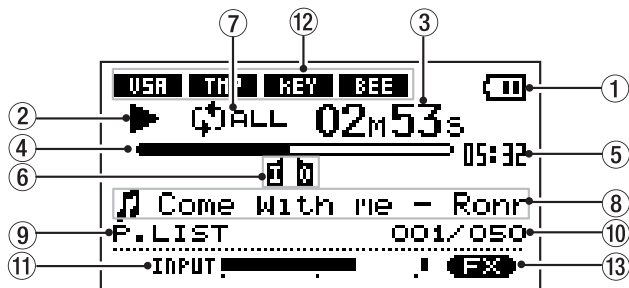
リセット用ホール

本機の動作がおかしくなったとき、クリップの先端など細長い棒などをこの穴に差し込んで、内部にあるシステムリセットボタンを押します。ボタンを押すと電源がオフになります。

注 意

通常の動作中はシステムリセットボタンを押さないでください。

第3章　ホーム画面

通常の動作時はディスプレイにホーム画面が表示されます。メニュー選択時、エフェクト操作時はそれぞれの専用画面が表示されます。

以下にホーム画面の表示項目を説明します。
メニュー選択時、エフェクト操作時の画面についてはそれぞれの説明個所をご覧ください。

① 電源

内蔵のリチウムイオン電池駆動時は電池アイコンを表示します。電池残量が３目盛り（充電が必要になったときの点滅表示を含めて計４段階）で表示されます。

② プレーヤー動作

プレーヤーの動作状態を表示します。

- ▶ ：再生中
- II ：曲の途中で停止中
- ■ ：曲の先頭で停止中
- ▶▶ ：早送り中
- ◀◀ ：早戻し中
- ▶▶I：次の曲にスキップ
- I◀◀ ：手前の曲にスキップ

③ 経過時間

再生中の曲の経過時間（分：秒）を表示します。

④ 再生位置表示バー

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑤ 残量時間

再生中の曲の残量時間（分：秒）を表示します。

⑥ ループの始点（IN 点）／終点（OUT 点）設定状況

ループ再生の始点／終点の設定状況を表示します。

始点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“I”が表示されます。

終点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“O”が表示されます。

⑦ ループ／リピート設定状態

状況に応じて以下のアイコンを表示します。

- SINGLE ：シングル再生中
- 1 ：１曲リピート中
- ALL ：プレイエリア内の全曲中
- I↔O ：ループ中

⑧ 曲情報

再生中の曲のTAG 情報もしくはファイル名を表示します。

ID3TAG 情報が有る場合、ID3TAG 情報が優先して表示されます。

ID3TAG 情報が無い場合はファイル名が表示されます。

⑨ 再生対象エリア

現在の再生対象エリアを表示します。

- ALL ：MUSIC フォルダ内の全ファイル
- FOLDER ：MUSIC フォルダ内のサブフォルダ内のファイル
- P.LIST ：プレイリストに登録されたファイル

⑩ 再生曲番号／総曲数

再生対象エリアの総曲数と現在の曲番を表示します。

⑪ INPUT レベルメーター

BASS IN 端子から入力されるベース信号のレベルを表示します。

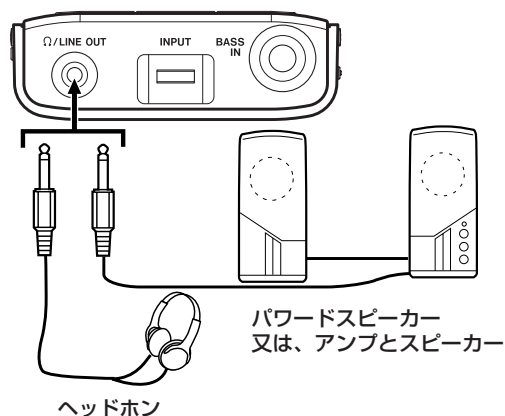
⑫ 再生コントロール機能の設定状態

各再生コントロール機能（VSA、テンポ、キー、BEE）の設定状態を表示します。

機能が動作中、白抜き文字になります。

⑬ エフェクタの設定状態

エフェクトのオン／オフ状態を表示します。エフェクト機能をオンにしたとき白抜き文字になります。

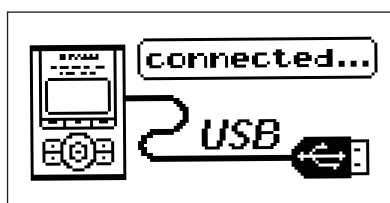
モニターを接続する

本機の Ω ／LINE OUT端子にヘッドフォンまたはモニターシステム（アンプ内蔵スピーカー、アンプ／スピーカーシステムなど）を接続します。

パソコンを接続する

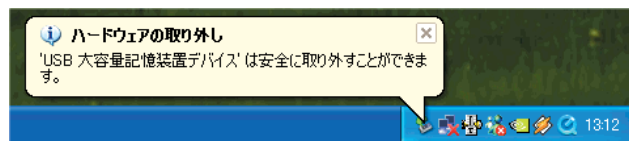
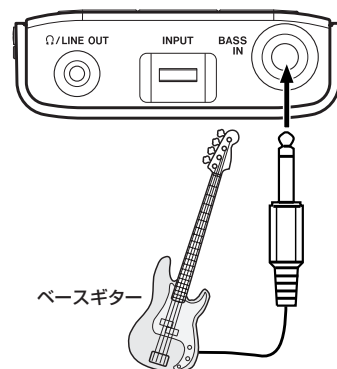
本機とパソコンを接続することにより、パソコン上の音楽ファイル（MP3形式）を本機に転送（コピー）したり、パソコン上で本機のファイルの削除やフォルダ操作を行なうことができます。

パソコンと接続するには、付属のUSBケーブルを使って本機のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続します。

接続すると本機の画面に、"USB connected..." が表示されます。

パソコンの画面に、本機が "MP-BT1" というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

工場出荷時には "MP-BT1" ドライブの中にオーナーズマニュアルのPDFデータを収録した "MANUAL" フォルダが有ります。

接続を外す

パソコンと本機の接続を外すときは、まず最初にパソコンから本機を正しい手順で切り離した後、USBケーブルを外します。本機が自動的に再起動します。

ベースを接続する

本機はベース専用入力端子、ベース用エフェクタを装備していますので、ベースを本機に直接接続するだけでさまざまな音色で演奏することができます。また再生音に合わせてベースを演奏することもできます。（→16ページ「内蔵エフェクタを使う」）

ホーム画面下部のINPUT部には入力レベルがメーター表示されますので、ベース信号のレベル調整や信号がちゃんと入力されているか確認する事が出来ます。入力レベルが大きすぎると一番右のドットがしばらく点灯します。逆に入力レベルが小さい場合メーターの振れは小さくなります。

メーター表示を参考にINPUTボリュームを使って入力レベルを適正位置に調節してください。

メ モ

出力レベルの大きなベース（電池を使用するアクティブタイプベースなど）を接続する時には音が歪みやすくなりますのでINPUTボリュームを絞ってお使いください。

また、INPUTボリュームを絞るだけでなくベースの出力ボリュームを少し絞るなど、両方のボリュームを調整することでより良い音量が得られる場合もあります。

第5章　パソコンから曲を取り込む

本機で再生できるのはMP3（MPEG1 Audio Layer III)形式のファイルです。（→26ページ「一般」、20ページ「情報を見る［INFOMATION］」）

MP3ファイルはパソコンからUSB経由で取り込みます。

注 意

- 拡張子.wavを持つRIFF形式のMP3ファイルには対応していません。
- サンプリング周波数は44.1kHzのみに対応しています。48kHzや32kHzのMP3ファイルには対応していません。

パソコン上にMP3ファイルを準備する

パソコンの機能／ソフトウェアアプリケーションを使って、CDの楽曲などをパソコンにMP3形式で取り込むことができます。

メ モ

MP3変換(エンコード)ソフトウェアを使うと、MP3形式以外のパソコン上の音楽ファイルをMP3形式に変換することができます。

尚、ほとんどのソフトウェアアプリケーションはMP3形式以外での変換にも対応しています。

変換の設定がMP3形式になっていることを確認して下さい。

パソコンからMP3ファイルを取り込む

1 本機とパソコンを接続します。（→7ページ「接続する」）

2 パソコン上の“MP-BT1”をクリックして開きます。

UTILITYフォルダ、MUSICフォルダが表示されます。

3 パソコン上の希望のMP3ファイルをMUSICフォルダにドラッグ＆ドロップします。

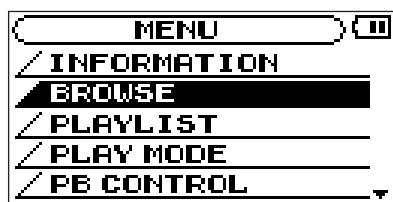
MP3ファイルがMUSICフォルダ内にコピーされます。

ヒント

- MUSICフォルダ内にサブフォルダを作成することができます。サブフォルダは２階層下まで操作できます。本機ではフォルダ内のみを再生範囲に設定することもできますので、取り込む楽曲のカテゴリーや演奏者別に整理しておくと便利です。（→11ページ「再生エリアを設定する［PLAY MODE］」）
- サブフォルダや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機の画面に表示されます。
- ３階層を超えるサブフォルダを作成しても本機では表示、操作できません。

4 コピーを終えたら、まず最初にパソコンから本機を正しい手順で切り離した後、USBケーブルを外します。本機が自動的に再起動します。

本機では多くの機能設定、環境設定をメニューの中で行ないます。

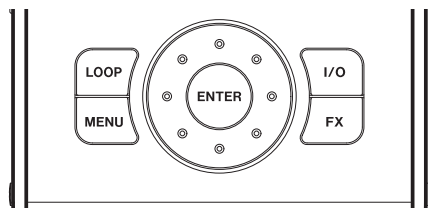
メニュー概要

本機のメニューには以下の項目があります。

メニュー	概　　要
INFORMATION	ファイル情報、環境設定情報、システム情報表示
BROWSE	MUSIC フォルダ部の音楽ファイル／フォルダ表示、ダイレクト選曲、プレイリスト登録
PLAY LIST	プレイリストの表示、編集（登録曲の削除、移動）
PLAY MODE	再生モードの設定、シングル、リピートモードの設定
PB CONTROL	テンポ、キー、ベースエンハンスエフェクトに関する設定
METRONOME	メトロノーム機能の設定、操作
TUNER	ベースチューナー機能、オシレーター機能
SETUP	各種環境設定、イニシャライズ、フォーマット

メ モ

エフェクトの操作、設定もディスプレイを使って行ないますが、メニューとは別に専用のエフェクト画面を使います。

メニュー操作の基本

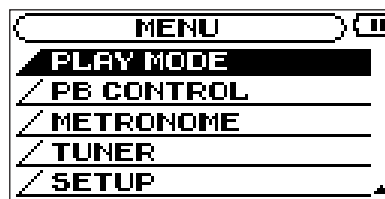
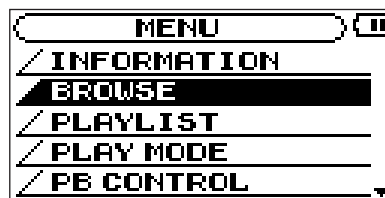
メニュー操作には MENU キー、ENTER キーおよびホイールを使います。（→４ページ「トップパネル」）

メ モ

曲を再生中も、メニュー操作やエフェクト操作を行なうことができます。

実際の操作例

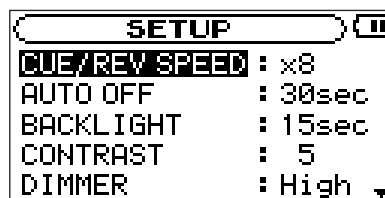
例として、SETUP メニューの CUE/REV SPEED 項目を使って早送り／早戻しサーチのスピードを変更してみましょう。

1 ホーム画面表示中に MENU キーを押します。

メニュー画面が表示され、メニューリストが表示されます。

メ モ

上図のように画面右下部の▼表示は、現在の画面表示より下にまだ表示内容があることを示しています。現在の画面表示より上にまだ表示内容がある場合は▲が表示されます。

2 ホイールを回して SETUP を反転表示し、ENTER キーを押します。

SETUP 画面が表示されます。

3 ホイールを回して CUE REV SPEED を反転表示し、ENTER キーを押します。
現在の設定（初期設定では×８）が反転表示されます。

4 ホイールを回して希望の設定にします。

メ モ

設定値の右側に表示される▲と▼は設定値の状態を表します。以下に例をあげて説明します。

可変範囲が０、１、２、３、…１０の設定の場合。
現在の設定値が０なら▲（下限を示す）を表示します。
現在の設定値が１０なら▼（上限を示す）を表示します。
現在の設定値が１～９なら▲と▼を表示します。

5 ディスプレイがホーム画面に戻るまで、MENU キーを押します。押す度に手前の階層に戻ります。

メ モ

エフェクタの設定操作も、上記のメニュー操作と基本的に同様です。（→16ページ「内蔵エフェクタを使う」）

第７章　基本再生

▶/❚❚ キー、⏮ キー、⏭ キーを使って、通常のCDプレーヤーなどと同じように操作します。

再生する

停止中に ▶/❚❚ キーを押すと、再生を始めます。

停止する

再生中に ▶/❚❚ キーを押すと、その位置で停止します。

曲を選ぶ

再生中や停止中にスキップキー（⏮ ／ ⏭ キー）を使って曲を選択します。

再生中あるいは曲の途中で停止しているときに ⏮ キーを押すと、曲の頭に戻ります。

曲の頭で停止しているときに ⏮ キー押すと、手前の曲にスキップします。

⏭ キーを押すと、常に次の曲にスキップします。

メモ

曲の頭で停止しているときは、ディスプレイにプレーヤー動作アイコン■を表示します。

曲の途中で停止しているときは、プレーヤー動作アイコン ❚❚ を表示します。

サーチする

⏮ ／ ⏭ キーを押し続けると早戻し／早送りサーチを行ないます。

音量を調節する

再生音量は OUTPUT VOLUME キー（+、−）を使って調節します。調整中、ボリューム位置がディスプレイ下部に表示されます。

VOL −■■■■■□□□□□□□+

再生する曲を選ぶ方法は２通りあります。

1）ホーム画面で ⏮ ／ ⏭ キーを使って選ぶ。

2）ブラウズ画面で選ぶ。

方法１）はシンプルで簡単な方法です。「再生エリア」の設定によって再生対象ファイルを限定することができます。

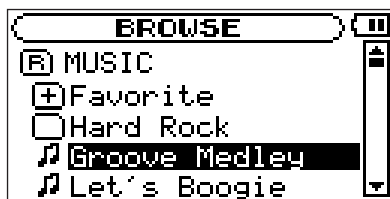
方法２）を使うと、本機に取り込んだすべての曲から選択することができます。

ブラウズ画面［BROWSE］

ブラウズ画面ではMUSICフォルダの内容を見ることができます。また、画面内で音楽ファイルを選択して▶/❚❚キーを押すことにより、直接再生することができます。

メ モ

- プレイリストの登録も、ブラウズ画面で行ないます。
- ブラウズ画面上でMUSICフォルダの構成を変更したり、ファイルやフォルダを削除することはできません。これらの操作はパソコン上から行ないます。

ブラウズ画面を表示するには、MENUキーを押してメニュー画面に入り、BROWSEメニューを選択します。

BROWSE画面には、フォルダや音楽ファイルが階層形式で表示されます。

フォルダ内の音楽ファイルを表示するにはフォルダを開くことが必要です。以下にBROWSE画面の表示詳細と操作方法を説明します。

Ⓡ MUSIC

ルート（ROOT）階層表示中のBROWSE画面では、最上段にMUSICフォルダが表示されます。

♫

音楽ファイルは、 ♫ のあとにファイル名が表示されます。

希望の音楽ファイルを選択し、▶/❚❚キーを押すと再生が始まります（ディスプレイがホーム画面に戻ります）。

また音楽ファイルを選択してENTERキーを押すと、プレイリスト登録するためのポップアップウィンドウが表示されます。（→ 12ページ「プレイリスト」）

メ モ

ファイルの拡張子がMP3ファイル以外のファイル名は表示されません。

⊞

内部にフォルダが存在するフォルダには ⊞ が表示されます。

□

内部にフォルダが存在しないフォルダには □ が表示されます。

フォルダを開くにはフォルダを選択してENTERキーを押します。

上図のFavoriteフォルダを開いた場合のBROWSE画面例を以下に示します。

(開いたフォルダのアイコン)

このフォルダの内容を画面表示しています。

⮤

現在の画面表示しているフォルダを閉じて上の階層のフォルダに戻るとき、このアイコンを選択してENTERキーを押します。

再生エリアを設定する［PLAY MODE］

本機では、パソコンから取り込んだ曲のうちホーム画面内で再生できる曲の範囲（再生エリア）を限定することができます（数多くの曲を取り込んだ場合など、限定することにより選曲しやすくなります）。

再生エリアの選択はPLAY MODEメニューから行ないます。

1 MENUキーを押してメニュー画面に入り、PLAY MODEを選択します。

PLAY MODE画面が表示されます。

2 AREA項目を選択し、ENTERキーを押します。

3 以下の中から再生エリアを選択します。

ALL：

パソコンから本機に取り込んだMUSICフォルダ内の全ファイルを再生することができます。

FOLDER：

現在選ばれている曲が含まれているフォルダ内のファイルを再生することができます。

現在のフォルダを変更するには、ブラウズ画面で希望するフォルダに移動し、そこにある曲を選曲します。（→11ページ「ブラウズ画面」）

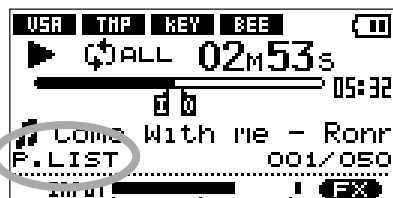
＊ 現在のフォルダのすぐ下に置かれたファイルのみが再生になります。
フォルダ内にある更に下層のサブフォルダに収納されているファイルは再生対象になりません。

PLAYLIST：

プレイリスト内のファイルを再生することができます。（→12ページ「プレイリスト」）

プレイリストに登録ファイルが存在しない場合は“No PLAYLIST”をポップアップ表示します。

メモ

再生エリアの現在の設定がホーム画面左下部に表示されます。

プレイリスト[PLAYLIST]

再生する曲のリスト（プレイリスト）を作成することができます。再生エリア（PLAY AREA）として“PLAYLIST”を選択すると、ホーム画面上のプレーヤー操作でプレイリスト上の曲のみが再生対象になります。

プレイリストに登録する

1 MENUキーを押してメニュー画面に入り、BROWSEを選択します。

ブラウズ画面が表示されます。

2 プレイリストに登録したい曲（音楽ファイル）を選択し、ENTERキーを押します。

プレイリストに登録するためのポップアップウィンドウが表示されます。

3 ADD LISTを選択してENTERキーを押します。

曲がプレイリストに登録され、ポップアップウィンドウが閉じます。

メモ

CANCELを選択してENTERキーを押すと、何もせずにポップアップウィンドウが閉じます。

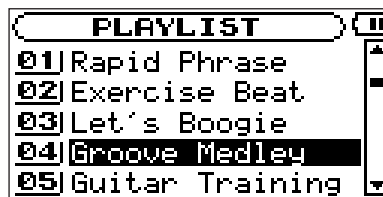
4 必要に応じて上記手順2、3を繰り返します。

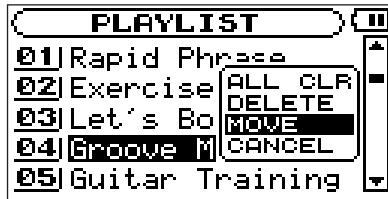
プレイリスト上では、登録順に曲番号が付けられます。

プレイリストを編集する

プレイリスト画面には作成したプレイリストが表示されます。またこの画面を使ってプレイリストを編集することができます。

1 MENUキーを押してメニュー画面に入り、PLAYLISTを選択します。

PLAYLIST画面が表示されます。

2 編集したい曲を選択し、ENTERキーを押します。

編集のためのポップアップウィンドウが表示されます。

ここから編集項目によって操作が異なります。以下に編集項目別の操作手順（手順３以下）を説明します。

メモ

編集を取りやめる場合、ポップアップウィンドウのCANCELを選択し、ENTERキーを押します。

全削除（ALL CLR）

プレイリスト上のすべての登録曲を削除します。（この操作の場合、手順２でどの曲を選択してもかまいません。）登録は削除されますが、実際の曲は削除されません。

3 ポップアップウィンドウのALL CLRを選択し、ENTERキーを押します。

警告メッセージが表示されます。

4 ENTERキーを押して、全削除を実行します。

キャンセルする場合はMENUキーを押します。

削除（DELETE）

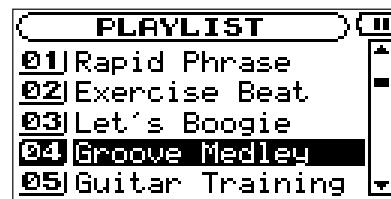
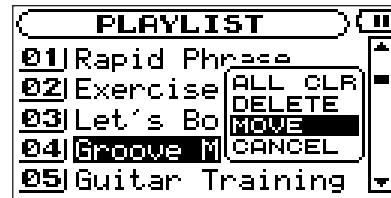
プレイリストに登録された曲を削除します。登録は削除されますが、実際の曲は削除されません。

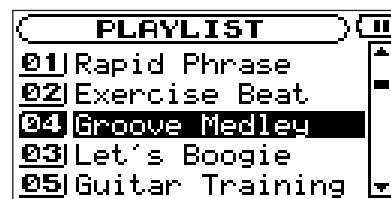
3 ポップアップウィンドウのDELETEを選択し、ENTERキーを押します。

登録曲が削除されます。

移動（MOVE）

プレイリスト上の順番を変更します。

3 ポップアップウィンドウのMOVEを選択し、ENTERキーを押します。

曲番の数字も反転表示になります。

4 ホイールを使って、プレイリスト内で選択曲を移動します。

上図は４曲目の曲を３曲目に移動した例です。

5 ENTERキーを押します。

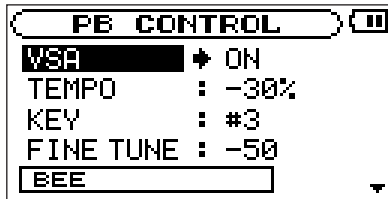
移動が完了して、通常のプレイリスト画面に戻ります。

第9章　曲のピッチ／テンポを変更する

本機では再生テンポを変えるだけでなく、音程を変えずにテンポを変えることができます。またテンポを変えずに音程を変えることもできます。

これらの設定はPB CONTROL画面で行ないます。ホーム画面表示中にENTERキーを押すとPB CONTROL画面が表示されます。

メモ

通常のメニュー操作と同様、MENUキーを押してメニュー画面から、PB CONTROLを選択することもできます。

テンポを変える（TEMPO）

TEMPO項目を使ってテンポを設定することができます。いちばん遅いテンポ設定では、元の半分のテンポになります。

テンポ値を0以外に設定すると、設定されたテンポに従って再生が行なわれます。

ホーム画面上の"TMP"アイコンが反転します。

VSA機能（次項参照）がオンのときとオフのときとで、テンポ設定ステップが異なります。

VSAオン時：－50、－32、－16、－12、－8、－4、0、＋4、＋8、＋12、＋16（%）

VSAオフ時：－50%～＋16%の範囲を1%刻みで設定可能

メモ

VSAオフ時にテンポ値を設定し、その後VSAをオンに切り換えた場合、最も近いテンポ値に自動変更されます。

キーを変えずにテンポを変える（VSA）

VSA機能（Variable Speed Audition）をオンにすると、曲のキーを保ったままテンポを変えることができます。VSA項目を使ってVSA機能のオン／オフを切り換えます。

オンのとき、ホーム画面上の"VSA"アイコンが反転します。

キーコントロール機能を使用している時に再生音が震えているように聞こえることがありますが、これは再生音を特殊処理している為に発生するもので、故障ではありません。

キーだけを変える（KEY）（FINE TUNE）

KEY項目を使って、テンポを変えずにキーだけを半音単位で変えることができます。

KEY項目では、±6半音の範囲（♭6～♯6）でキーを上下できます。

キーを変えると（0以外に設定すると）、キー変更が有効（オン）になり、ホーム画面上の"KEY"アイコンが反転します。

FINE TUNE項目を使うと、音程を微調整することができます。

セント（半音の1/100）単位でキーを上下できます。

ベースの音をコントロールする(BEE : BASS ENHANCE EFFECT)

BEE機能を使って、曲中で演奏されているベース音や輪郭を強調したり、低減することができます。

PB CONTROL画面には以下の設定項目が表示されます。

- EFFECT項目

  BEE機能のオン／オフを選択します。"ON"に設定するとホーム画面上の"BEE"アイコンが反転します。

- TYPE項目

  以下の中からBEE機能のタイプを選択します。

  選択したタイプによっては下段に設定項目が表示され、効果を調整することができます。

・BOOST：ベース音を強調します。

  BOOSTを選択すると下段にLEVEL項目が表示れ、強調するレベルを調整できます。 LEVEL項目では数字が大きいほど大きく変化します。

・ENHANCE：ベース音の輪郭を強調します。

  ENHANCEを選択すると下段にFREQ項目が表示され、強調する周波数を調整できます。FREQ項目では数字が大きいほど対象となる周波数が高くなります。

・CANCEL：ベース音を低減します。

メモ

BEE機能の効果は曲によって変ります。BOOSTやENHANCEを使用して思ったような効果が得られない場合は、LEVEL項目またはFREQ項目を調整することで改善する場合があります。

第10章　ループ再生する

以下の手順で、希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

1 再生中（または一時停止中）、ループ再生したい区間の始点で **I/O** キーを押します。

   現在位置が始点（IN点）として設定されます。

2 ループ再生したい区間の終点で **I/O** キーを押します。

   現在位置が終点（OUT点）として設定され、IN – OUT点間のループ再生が開始されます。

- ホーム画面の再生位置表示バーの下部には、IN点、OUT点それぞれの設定に該当する位置に "I" アイコン、"O" アイコンが点灯します。またループ再生中、" I↔O " アイコンが点灯します。
- ループ再生を中止するには、**LOOP** キーまたは **I/O** キーを押します。
  - **LOOP** キーを押した場合、ループ区間の設定が残り、再び **LOOP** キーを押すとまたループ再生が始まります。
  - **I/O** キーを押した場合、ループ区間の設定がクリアされます。

第11章　リピート再生や1曲再生を行なう [PLAY MODE]

現在の曲（1曲）または選択した再生エリア内の全曲を繰り返し再生（リピート再生）したり、1曲だけ再生することができます。

1 **MENU** キーを押してメニューモードに入り、**PLAY MODE** メニューを選択します。

```
PLAY MODE
AREA   :PLAYLIST
REPEAT :ALL REPEAT
```

2 **REPEAT** 項目で再生モードを選択します。

- OFF：

  通常の再生（再生エリア内の連続再生）を行なうモードです。

- SINGLE：

  1曲だけ再生するモードです。リピートは行ないません。

  ホーム画面に（シングルアイコン）が表示されます。

- 1 REPEAT：

  再生中の曲をリピート再生するモードです。

  ホーム画面に（1曲リピートアイコン）が表示されます。

- ALL REPEAT：

  プレイエリアで選択した範囲内の全曲をリピート再生するモードです。

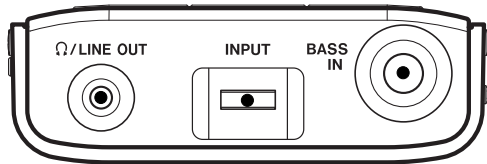
  ホーム画面に（全曲リピートアイコン）が表示されます。

メモ

REPEAT MODE が OFF 以外のときにループ再生を実行すると、REPEAT MODE が自動的に OFF になります。

第12章　ベースを接続する

本機にベースを接続することにより、再生音とベースをミックスして鳴らすことができます。

また、ベース用エフェクタも搭載していますので、本格的なベース練習用途にも使用可能です。

ベースを本機のBASS IN端子に接続します。

INPUTボリュームを使って入力レベルを調節します。

Ω /LINE OUT端子からベースの音が出力されます。

曲を再生しながら演奏する

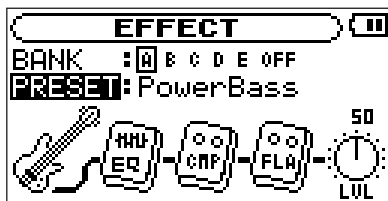
曲を再生しながらベースを演奏すると、ミックスされた信号が Ω /LINE OUT端子から出力されます。

MIX BALANCEキーを使って、再生音（PLAYBACK）とベース（BASS）の音量バランスを調節することができます。

調整中、バランス状態がディスプレイ下部に表示されます。

内蔵エフェクタを使う

本機にはベース用マルチエフェクタが内蔵されています。

FXキーを押すとエフェクト画面が表示されます。

エフェクト画面ではメニュー操作と同じように、ホイールを使って項目や設定値を選択し、ENTERキーを使って選択を確定し、MENUキーを使って手前の画面に戻ります。

上図のようにエフェクト画面にはBANK項目とPRESET項目のほかに、ベース、最大３台のエフェクトモジュール、LVLつまみの各アイコンが表示されています。これらのアイコンのうちベースアイコン以外はすべて、設定項目を持ちます。したがって、エフェクト画面表示中にホイールを回していくと、エフェクトモジュールやLVLつまみのアイコンも反転表示（選択）になります。なおエフェクトモジュールの種類や数は、選択しているプリセットに応じて変わります。各プリセットに接続されるエフェクトモジュールの種類については「エフェクタプリセット一覧」（21ページ）をご覧ください。

BANK項目

エフェクトバンクをバンクA～E、またはOFFの中から選択します。

バンクA～Eのいずれかが選択されている時は、ホーム画面右下の”FX”アイコンが反転表示されます。

各バンクにはそれぞれ別なプリセットエフェクトを選択できます。82種類のプリセットエフェクトの中から、よく使うプリセットエフェクトを各バンクに設定しておくことで、５種類のエフェクトを簡単に切り替えて使用することができます。

OFFを選択すると、エフェクトはバイパスされ無効になります。

PRESET項目

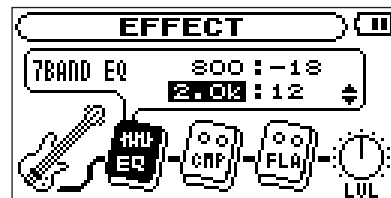
選択しているバンクで使用するプリセットエフェクトを選択します。

エフェクトは３つのエフェクトモジュールの組み合わせで構成されていて、選択したプリセットエフェクトによって、エフェクトモジュールの組み合わせが変わります。

プリセットエフェクトと各エフェクトモジュールの組み合わせについては「エフェクタプリセット一覧」(21ページ)をご覧下さい。

エフェクトモジュール

各エフェクトモジュールのパラメータを設定します。

エフェクトモジュールアイコンを反転表示させてENTERキーを押すと、下図のようなパラメータ設定項目が表示されます。表示されるパラメータの種類や数はエフェクトモジュールごとに異なります。（22ページ→「エフェクトモジュールのパラメーター覧」）

LVLつまみアイコン

エフェクト出力レベルを調節します。このアイコンを反転表示してENTERキーを押すとアイコン上部の数値が反転表示になり、レベル設定（0～100）が可能になります。

エフェクト画面を終了するには

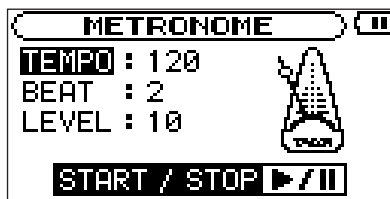
FXキーを押すとホーム画面に戻ります。

メモ

MENUキーを押していってホーム画面に戻ることもできます。

第13章　メトロノームを使う［METRONOME］

本機はメトロノームを内蔵していますので、ベースの練習時などに使うと便利です。

メトロノームを使うには、MENUキーを押してメニュー画面に入り、METRONOMEを選択します。

TEMPO項目

テンポを設定します。20～250の範囲で設定できます。

BEAT項目

拍子を設定します。拍子は0～9の範囲で設定できます。

"0" に設定するとアクセント拍がありません。

LEVEL項目

メトロノーム音量を設定します。

メトロノームのオン／オフ

▶/II キーを使ってメトロノームのオン／オフを行ないます。

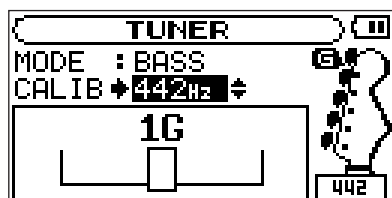
メモ

メトロノーム動作中はメトロノーム画面が通常ホーム画面と入れ替わります。

メトロノームを停止することで通常のホーム画面に戻ります。

第14章　チューナーを使う［TUNER］

本機はベースチューナーを内蔵しています。このチューナーはAUTOモード、BASSモードのほか、任意の音程の音を出力するオシレータを実装していますので、様々な方法でベースのチューニングを行うことができます。

チューナー機能を使うには、MENUキーを押してメニュー画面に入り、TUNERを選択します。

MODE項目

以下の中からチューナーモードを選択します。

BASSモード（ベースチューナーモード）
AUTOモード（クロマチックチューナーモード）
OSC.モード（オシレーターモード）

CALIB項目

A音の基準周波数を435Hz～445Hzの範囲で設定します。

設定値は画面右下部に表示されます。

この設定はすべてのチューナーモードに共通です。

各チューナーモード別の使い方を以下に説明します。

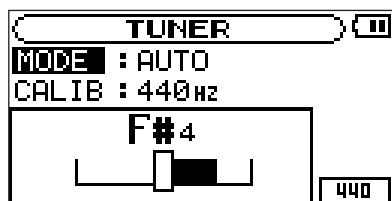
AUTOモード（クロマチックチューナーモード）

通常のモードです。チューニングする弦を変える毎に設定を変える必要がありません。

1 BASS IN端子にベースを接続し、チューニングしたい弦を弾くと、もっとも近い音名が表示されます。

2 合わせたい音名が表示されるよう、ラフにチューニングを行ないます。

3 メーター中央部が点灯するようにチューニングします。

チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。バーの長さはズレの程度に応じて異なります。

BASSモード（ベースーチューナーモード）

チューニングする弦を変える毎に設定を変えます。

1 NOTE項目を使って、チューニングしたい弦（1G、2D、3A、4E、5B）を選択します。

2 メーター中央部が点灯するようにチューニングします。

チューニングのやり方はAUTOモード時と同じです。

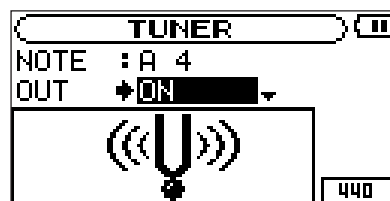
OSC.モード（オシレーターモード）

内蔵のオシレーターを使って、3オクターブ（C2音～B4音）の範囲のサイン波を ☊ /LINE OUT端子から出力することができます。

NOTE項目

発生する音程（C2音～B4音）を選択します。

OUT項目

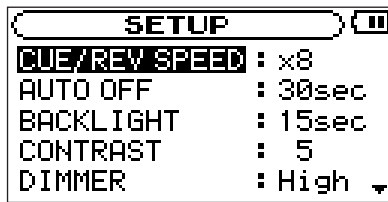
オシレーター音を出力するかしないか（ONまたはOFF）を選択します。ONに設定すると、音叉から音が発生しているようなビジュアル表示になります。

LEVEL項目

発生音の出力レベル（0～100）を設定します。

第15章　各種設定を行なう［SETUP］

本機のさまざまな環境設定、イニシャライズ、フォーマットなどは、セットアップ画面で行ないます。

セットアップ画面を表示するには、MENUキーを押してメニュー画面を表示し、SETUPを選択します。

SETUP
CUE/REV SPEED : x8
AUTO OFF : 30sec
BACKLIGHT : 15sec
CONTRAST : 5
DIMMER : High

SETUPメニューの各項目で、以下の設定を行なうことができます。

早送り／早戻しスピードの設定［CUE/REV SPEED］

CUE/REV SPEED項目で、⏭／⏮キーを押したままにしたときの早送り／早戻しのスピードを設定します。

選択肢：×2、×4、×8（初期設定）、×10

電源のオートオフ設定［AUTO OFF］

バッテリー駆動時、曲を停止した状態で最後に操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定することができます。

選択肢：OFF（初期設定、電源オフしない）、3min、5min、10min、30min

バックライトのオートオフ設定［BACKLIGHT］

バッテリー駆動時、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定することができます。

選択肢：OFF（消灯しない）、5sec（初期設定）、10sec、15sec、30sec

ディスプレイコントラストの調整［CONTRAST］

ディスプレイのコントラストを調整します。

選択肢：1～20（初期設定：12）

バックライトの輝度調整［DIMMER］

バックライトの輝度を調整することができます。

選択肢：HIGH（初期設定）、LOW、OFF（バックライトを点灯しない）

イニシャライズ［INITIALIZE］

本機のさまざまな設定を初期状態に戻します。

1 INITIALIZEを選択してENTERキーを押すと、"Exec ←" が点灯します。

2 ENTERキーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。

3 ENTERキーを押して、イニシャライズを実行します。

イニシャライズしない場合はMENUキーを押します。

クイックフォーマット［QUICK FORMAT］

本機のフラッシュメモリーのクイックフォーマットを行ないます。

フォーマットを行うと、メモリー内のすべてのファイルが消去され「MUSIC」「UTILITY」フォルダとMP-BT1.SYSが自動生成されます。

工場出荷時に記録されている「MANUAL」フォルダとオーナーズマニュアルのPDFデータは消去されます。

1 FORMATを選択してENTERキーを押すと、"Exec ←" が点灯します。

2 ENTERキーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。

3 ENTERキーを押して、クイックフォーマットを実行します。

フォーマットしない場合はMENUキーを押します。

フルフォーマット［FULL FORMAT］

本機のフラッシュメモリーのフルフォーマットを行ないます。

フォーマットを行うと、メモリー内のすべてのファイルが消去され「MUSIC」「UTILITY」フォルダとMP-BT1.SYSが自動生成されます。

工場出荷時に記録されている「MANUAL」フォルダとオーナーズマニュアルのPDFデータは消去されます。

フルフォーマットではメモリーのエラーチェックをしながらフォーマットを実行します。

クイックフォーマットに比べて多くの時間が掛かりますので終了するまでしばらくお待ち下さい。

1 FORMATを選択してENTERキーを押すと、"Exec ←" が点灯します。

2 ENTERキーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。

3 ENTERキーを押して、フルフォーマットを実行します。

フォーマットしない場合はMENUキーを押します。

注 意

フォーマットはACアダプタ（オプション）を使用するかバッテリの残量が十分な状態で行ってください。
フォーマット中にバッテリ切れになると正常にフォーマットができない場合があります。

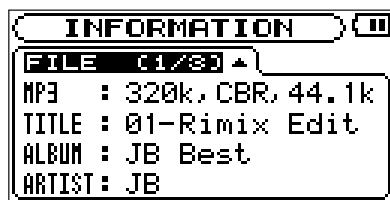
第16章　情報を見る［INFORMATION］

インフォメーション画面で、本機の各種情報を見ることができます。

インフォメーション画面を表示するには、MENUキーを押してメニュー画面を表示し、INFORMATIONを選択します。

インフォメーション画面には以下の３ページがあります。ホイールを使ってこれらのページを切り換えることができます。

- ファイル情報ページ（FILE）：再生中のMP3ファイルの情報を表示
- メモリー情報ページ（MEMORY）：内蔵フラッシュメモリーの使用状況を表示
- システム情報ページ（SYSTEM）：本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

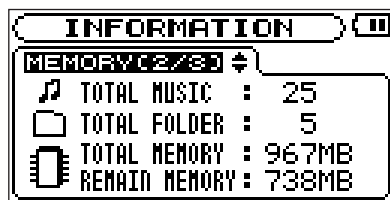
ファイル情報ページ（FILE）

再生中のファイルの情報を表示します。

MP3項目： MP3ファイルのビットレート（kbps)、CBR/VBR、サンプリング周波数(kHz)を表示します。
(CBR：固定ビットレート、VBR：可変ビットレート)

TITLE項目： ID3TAGのタイトル情報を表示します。ID3TAG情報がない場合はファイル名を表示します。

ALBUM項目： ID3TAGのアルバム情報を表示します。ID3TAG情報がない場合はなにも表示しません。

ARTIST項目： ID3TAGのアーティスト情報を表示します。ID3TAG情報がない場合はなにも表示しません。

メモリー情報ページ（MEMORY）

内蔵フラッシュメモリーの使用状況を表示します。

TOTAL MUSIC ： MUSICフォルダ内にある再生可能なファイル数を表示します。

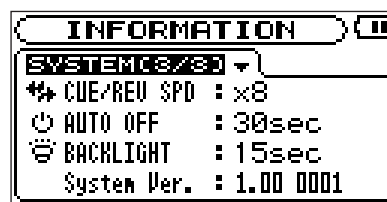
TOTAL FOLDER ： MUSICフォルダ内にあるフォルダ数を表示します。

TOTAL MEMORY ：内蔵フラッシュメモリーの総メモリー容量を表示します。

REMAIN MEMORY ：内蔵フラッシュメモリーの残容量を表示します。

メモ

本機が認識可能なファイル、フォルダ数はファイルとフォルダの合計数が550個までです。

システム情報ページ（SYSTEM）

本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。

CUE/REV SPD ：早送り／早戻しのスピード設定を表示します。

AUTO OFF ：電源のオートオフ設定を表示します。

BACKLIGHT ：バックライトのオートオフ設定を表示します。

System Ver.：システムファームウェアのバージョン情報を表示します。

	プリセット名称	Module1	Module2	Module3	効　　果
1	PowerBass	Compressor	7Band EQ	Flanger	ミッドの豊かなパワフルなトーン。CMPとFLAが隠し味。
2	Rock Bass	7Band EQ	Compressor	Through	CMPのサスティーンを生かしたミッドローの太いRockボトム。
3	Cool Slap	7Band EQ	Through	Chorus	低域を強調し、CHOを加えたクールなスラップトーン。
4	Tight Bass	7Band EQ	Through	Through	400Hzのミッドをカットしたタイトなトーン。
5	Deep Bass	7Band EQ	Through	Reverb	太い低域に深めのREV。
6	BoldBass	Compressor	7Band EQ	Chorus	CMPを強くかけミッドローを持ち上げてCHOを。
7	Warm sound	7Band EQ	Compressor	Chorus	高域をカットし、ミッドレンジの豊かな暖かいトーン。
8	Artificial	Compressor	7Band EQ	Techno Filter	TECの効果を発揮した個性的なサウンド。
9	RadioTone	7Band EQ	Compressor	Auto Wah	ローカットにWAHを入れたラジオボイス。
10	Dist GTR	7Band EQ	Distortion	Chorus	Dist GTR＝ディストーションギター。
11	Funk GTR	7Band EQ	Distortion	Auto Wah	WAHを生かしたFunkyギターサウンド。
12	Funky	7Band EQ	Compressor	Through	強めにかけたCMP、太いFunkyなトーン。
13	FunkyWah	Compressor	7Band EQ	Auto Wah	CMPにWAHを入れた太いFunkベースサウンド。
14	FunkyPhew	Compressor	7Band EQ	Phaser	中低域を整えPHAを生かしたフェイズサウンド。
15	FunkyJet	Compressor	7Band EQ	Flanger	FLAを絡めたジェットサウンド。
16	Slap	7Band EQ	Compressor	Through	ロー＆ハイを上げCMPで整えたSlapトーン。
17	70's Funk	7Band EQ	Through	Auto Wah	WAHを効果的に生かした70年代FUNKベース。
18	80's Funk	7Band EQ	Compressor	Phaser	CMP＆PHAのタイトな80年代FUNKベース。
19	Mr.Trebly	7Band EQ	Compressor	Delay	ローカット＆ハイエンドを強調したトレブリーサウンド。
20	DirtyOne	7Band EQ	Distortion	Through	DSTを生かしたダーティー＆ヘヴィーサウンド。
21	DeepFreeze	Compressor	7Band EQ	Chorus	CMP&CHOでクールなSlapトーン。
22	ROCKnROLL	7Band EQ	Distortion	Delay	DST&EQ、Stack Ampの様なRockサウンド。
23	Jazzy	7Band EQ	Through	Reverb	ハイカットにREVを入れたジャジーベース。
24	Fuzzy1	7Band EQ	Distortion	Techno Filter	DST&TECでサイケなFuzz。
25	Old Type	7Band EQ	Through	Reverb	軽くREVを入れて空気感を加えた60年代の落ち着いたベース。
26	Fuzzy2	7Band EQ	Compressor	Techno Filter	ローカットEQにTECを加えた個性的なFUZZ。
27	Dark Bass	Compressor	7Band EQ	Delay	CMP&DLYにハイカットした太くダークなベース。
28	SolidState	7Band EQ	Distortion	Through	70'SolidStateベースアンプのヘヴィートーン。
29	Metallic	7Band EQ	Through	Exciter	ロー＆ハイを上げEXCを入れたメタリック（金属的な）サウンド。
30	Blue	7Band EQ	Through	Reverb	フラットなEQにREVを入れた落ち着いたトーン。
31	Red	Distortion	7Band EQ	Flanger	DST&FLAのホットなサウンド。
32	Flying	7Band EQ	Distortion	Flanger	ロー＆ハイを上げてDSTで歪ませFLAを入れた浮遊感。
33	Dropper	7Band EQ	Through	Octaver	ハイカットEQにOCTを入れたダークなオクターヴサウンド。
34	Wall of S.	7Band EQ	Distortion	Reverb	DST&REV、ヘヴィーボトムベース。
35	BASSnBASS	7Band EQ	Through	Octaver	オクターブ下を加えた太いサウンド。
36	OffBass	Distortion	7Band EQ	Delay	DST&DLYでタイトなトーン。
37	SneakBass	Distortion	7Band EQ	Phaser	DST&PHA、ワイルドで個性的なサウンド。
38	AddHi8va	7Band EQ	Distortion	Octaver	1オクターヴ上の音を加えたDSTトーン。
39	AddLo8va	Compressor	7Band EQ	Octaver	1オクターヴ下の音を加えたファットサウンド。
40	LowDump	7Band EQ	Through	Reverb	REVを入れたローカットトーン。
41	HighDump	7Band EQ	Through	Reverb	ハイカットにREVを入れたウォームなトーン。
42	Boomy	7Band EQ	Compressor	Reverb	モコモコのBoomyな歪み。
43	Drilling	7Band EQ	Distortion	Exciter	DST&EXCで激しいディストーション。
44	ShakinBass	Compressor	7Band EQ	Phaser	PHAで大きく揺さぶる個性的なエフェクトサウンド。
45	Nostalgy	Distortion	7Band EQ	Reverb	DST&REVで70年代の歪みサウンド。

	プリセット名称	Module1	Module2	Module3	効　　果
46	Splash	Distortion	7Band EQ	Flanger	DST&FLAで弾けたエフェクトサウンド。
47	Std.Rock	Compressor	7Band EQ	Reverb	軽いCMPにREVを入れたオーソドックストーン。
48	Doubling	Distortion	7Band EQ	Octaver	DST&OCTで歪んだダブリングサウンド。
49	BassBomber	Compressor	7Band EQ	Delay	きつめのCMPにハイカットEQにDLY。ヘヴィーボトム。
50	CleanBass	Compressor	7Band EQ	Through	軽いCMPのフラットなトーン。
51	Echo	7Band EQ	Through	Delay	フラットEQにDLYタイムの長いエコーサウンド。個性的。
52	Screaming	7Band EQ	Distortion	Exciter	DST&EXCでスクリーム＝叫ぶ様なヘヴィートーン。
53	LikeTechno	Distortion	7Band EQ	Techno Filter	DSTで歪ませEXCを加えたテクノサウンド。
54	Fusion	7Band EQ	Compressor	Chorus	CMPで整えCHOを加えたSlap向けトーン。
55	Booster	Distortion	7Band EQ	Through	ロー＆ハイをカットしDSTを入れたブースタートーン。
56	TreBoost	Compressor	7Band EQ	Chorus	高域を強調したトレブルブースト。
57	MidBoost	Compressor	7Band EQ	Reverb	ミッドを上げREVを加えたミッドブースター。
58	BasBoost	Compressor	7Band EQ	Through	低域を上げCMPを入れたFatなトーン。
59	Noble Bass	7Band EQ	Through	Reverb	REVを有効に使用した美しいトーン。
60	Stepping	Compressor	7Band EQ	Delay	CMPに長めのDLYの個性サウンド。
61	Rotation	7Band EQ	Through	Flanger	FLAを効果的に使用したロータリーサウンド。
62	Peaky	Distortion	7Band EQ	Auto Wah	きつめのDSTとWAHのヘヴィーFUNKサウンド。
63	Beeper	7Band EQ	Distortion	Phaser	DST&PHA、ビープサウンド。
64	Rhythm	Compressor	7Band EQ	Through	軽いCMP、適度にEQで色づけしたオーソドックストーン。
65	Emphasizer	7Band EQ	Distortion	Exciter	DST&EXCの過激なディストーション。
66	SharpEdge	7Band EQ	Compressor	Exciter	EXCを生かしたシャープなエッジ。
67	Jaggy	7Band EQ	Distortion	Exciter	ローエンドを持ち上げDST&EXCでヘヴィーは歪み。
68	Fantasy	7Band EQ	Through	Techno Filter	低域をカットしTECフィルターを生かした個性的なサウンド。
69	Tempest	7Band EQ	Distortion	Flanger	10KHzをブーストしDST&FLAで嵐の様なノイジーサウンド。
70	Distortion	Distortion	Through	Through	ディストーション。
71	Compressor	Compressor	Through	Through	コンプレッサ。
72	Flanger	Through	Through	Flanger	フランジャー。
73	Chorus	Through	Through	Chorus	コーラス。
74	Phaser	Through	Through	Phaser	フェイザー。
75	AutoWah	Through	Through	Auto Wah	オートワウ。
76	TechnoFlt	Through	Through	Techno Filter	テクノフィルタ。
77	Octaver	Through	Through	Octaver	オクターバ。
78	Exciter	Through	Through	Exciter	エキサイタ。
79	Delay	Through	Through	Delay	ディレイ。
80	Reverb	Through	Through	Reverb	リバーブ。
81	Equalizer	7Band EQ	Through	Through	イコライザ。
82	Through	Through	Through	Through	エフェクトスルー。

第18章　エフェクトモジュールのパラメーター覧

下表は本機に実装されたエフェクト・プリセットを構成する各エフェクト・モジュールの特徴について説明したものです。個々のエフェクトの中には単独ではなく他のモジュールと組み合わせて使用することで良い効果を得られる場合があります。各モジュールごとのパラメータを調整してもイメージしたサウンドが得られないときには、よりイメージに合うプリセットを探してみることをお勧めします。

モジュール	効　　果	パラメータ	パ ラ メ ー タ 内 容	値　域
7 Band EQ (EQ))	特定の周波数の音をブースト/カットすることができます。	50 120 400 800 2.0k 5.0k 10k	特定の周波数のブースト/カット量を調整します。	-18～0～18
Distortion (DST)	ベース音を深く歪ませ、輪郭感や厚み、サスティーン効果を得ることができます。	DST	音の歪み具合を調整します。 （数字が大きいほど強くかかります。）	0～30
		TONE	音色を調整します。	0～20
Compressor (CMP)	ベース音のピークを抑えて音量を揃えサスティーン 効果を得ることができます。	COMP	ピークを抑える具合を調整します。 （数字が大きいほど強くかかります）	0～30
		GAIN	出力の音量を調整します。	0～20
Flanger (FLA)	遅れ時間を周期的に変化させた音を原音にミックスすることで、大きなうねりのあるジェットマシーンサウンドを得ることができます。	SPD	うねりの速さを調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Phaser (PHA)	位相を周期的に変化させた音を原音にミックスすることで、うねりのあるフェイジングサウンドを得ることができます。	SPD	うねりの速さを調整します。	0～30
		RES	レゾナンス効果により数字が大きいほど独特なくせのある音になります。	0～20
Chorus (CHO)	遅延させた音を揺らして原音にミックスすることで、音に広がりや厚みを与えます。	DPTH	コーラス効果の深さを調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Auto Wah (WAH)	演奏の強弱に応じて、ワウ効果を得ることができます。	SENS	演奏の強弱に対するワウの反応感度を調整します。	0～30
		MODE	3種類（LP/BP/HP）の音色を選択することができます。	LP/BP/HP
Octaver (OCT)	1オクターブ下/1オクターブ上の音を原音にミックスすることで、厚みのあるオクターブサウンドを得ることができます。	OCT	1オクターブ下(DN)/1オクターブ上(UP)を選択することができます。	DN/UP
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Techno Filter (TEC)	フィルターの値をランダムに変化する独特なサウンドです。	SPD	変化の速さを調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Exciter (EXC)	ベース音に倍音成分を付加することで音の輪郭をはっきりさせ、きらびやかなサウンドを得ることができます。	FREQ	付加する倍音の音色を調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20

モジュール	効　　　果	パラメータ	パ ラ メ ー タ 内 容	値　域
Reverb (REV)	残響音を与えることで空間的広がりを表現することができます。	TIME	残響の持続時間を調整します。	0～25
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Delay (DLY	山びこのような効果を得ることができます。	TIME	ディレイタイムを調整します。	0～99
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20

第19章　MP-BT1 メッセージ一覧

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

MP-BT1 では状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
File not found	「ファイルが見つかりません。」 対象の音楽ファイルが見つからないかファイル内容が壊れている場合に表示されます。 対象の音楽ファイルを確認してください。
Non-Supported	「ファイルの形式がサポート対象外です。」 対象の音楽ファイルのエンコード形式が対象外である場合に表示されます。 対象ファイルのエンコード形式を確認してください。
Battery Empty	「バッテリーが空です。」 バッテリーが殆ど空の状態に表示されます。 USB または AC アダプターを接続し充電してください。
I/O Too Short	「IN ポイントと OUT ポイントが近すぎます。」 I/O キーで Loop 再生に入ろうとするとき IN ポイントと OUT ポイントが非常に近すぎると表示されます。 IN ポイントと OUT ポイントを再度設定し直して見てください。
File Not Found PLAYLIST	「プレイリスト上のファイルが見つかりません。」 プレイリストに登録されているファイルが見つかりません。 MUSIC フォルダに対象のファイルがあるか確認してください。
No PLAYLIST	「プレイリストがありません。」 プレイモードを「PLAYLIST」にした場合、プレイリストにファイルが一つも登録されていない場合に表示されます。 プレイリストへファイルを登録してください。詳しくは取扱説明書 12 ページ「プレイリストに登録する」をお読みください。
PLAYLIST FULL	「プレイリストが一杯です。」 プレイリストに 99 曲登録された状態で新たにファイルを登録しようとしたとき表示されます。 プレイリストから不要なファイルを削除してください。 詳しくは取扱説明書 12 ページ「プレイリストを編集する」をお読みください。
Memory Error Init Memory	「フラッシュメモリ内の設定データが不正です。」 フラッシュメモリに保存されている設定データが異常、もしくは壊れています。 Are you Sure? 表示の状態で ENTER を押すことで設定データが初期化されます。 **注意**：初期化が実行されると設定がすべて工場出荷時に戻ります。
Format Error Format Memory	「フラッシュメモリのフォーマットが不正です。」 フラッシュメモリの FAT フォーマットが異常、もしくは壊れています。 このメッセージは USB 接続したパソコンから FAT でフォーマットした場合も表示されます。FAT フォーマットは必ず製品本体で行う必要があります。 Are you Sure? 表示の状態で ENTER を押すことで　フラッシュメモリ全域が FAT でフォーマットされます。 **注意**：FAT フォーマットが実行されるとフラッシュメモリ内のデータはすべて 消去されます。
Not Found File Make Sys File	「システムファイルがありません。」 本機を使用するために必要なシステムファイルが無い場合に表示されます。 Are you Sure? 表示の状態で ENTER を押すことでシステムファイルが自動的に作られます。
Invalid SysFile Make Sys File	「システムファイルが不正です。」 本機を使用するために必要なシステムファイルが異常、もしくは壊れています。 Are you Sure? 表示の状態で ENTER を押すことで現在のファイルは破棄され、正常なシステムファイルで自動的に上書きされます。

メッセージ	内容と対処方法
Not Continued	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談下さい。
File Error	
FX Rx Failed	
FX Busy	
Can't Save Data	
Memory Error	
Player Error	
Device Error	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第20章　充電池のリサイクル

本機にはリチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの製品の廃棄に際しては、リチウムイオン電池を取り外して、リサイクルにご協力下さい。

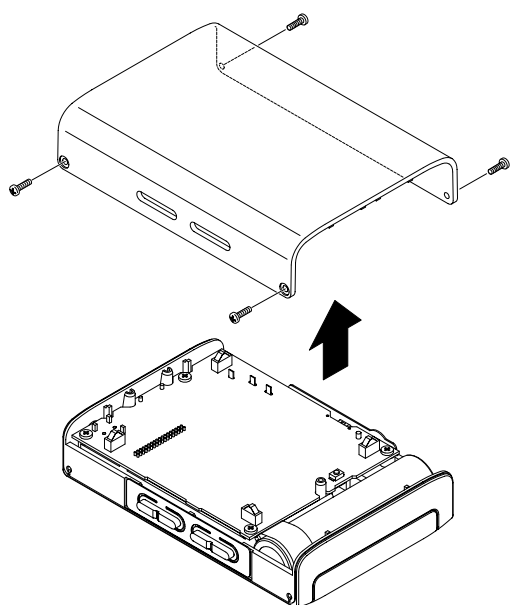
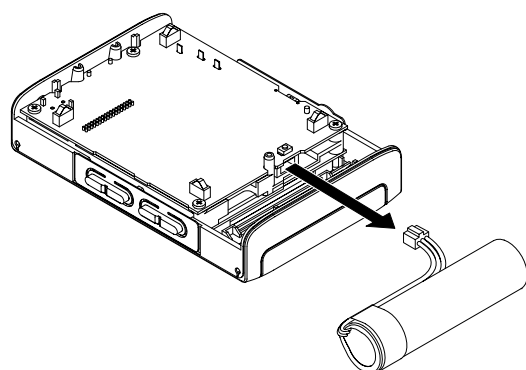
■ご不明な場合は、弊社のタスカム営業技術までお問い合わせください。

Li-ion

⚠注意　**製品を廃棄するとき以外は、絶対に本体を分解しないでください。**

充電池の取り外し方

充電池を取り外す場合は、スイッチを"ON"にして完全に動作しなくなるまで電池を放電させてから行ってください。(放電させる際には、オートパワーオフ機能は"OFF"に設定してください。)

1　本体側面のネジを外し(4カ所)、上ケースを外します。

2　本体から充電池を取り出し、コネクタを外します。

第21章　仕様

オーディオ入出力定格

- BASS IN入力
  端子：　標準ホンジャック（モノ、不平衡）
  入力インピーダンス：1MΩ
  最大入力レベル：　＋10dBV
  ヘッドルーム：　10dB
- PHONES/LINE OUT出力
  最大出力：　20mW＋20mW（32Ωヘッドホン接続時）

オーディオ性能

- 周波数特性（BASS IN→PHONES/LINE OUT）：　20Hz〜20kHz, ＋1/－3dB
- 歪率（BASS IN→PHONES/LINE OUT）：　0.05%以下
- S/N比（LINE OUT）：　90dB以上（0dBV）

一般

- MP3ファイル：32kbps〜320kbps、サンプリング周波数44.1kHz
  VBR再生対応、Ver〜2.4のID3TAG表示をサポート

メモ

VBRで作成されたMP3ファイルはループ再生で正確なIN/OUTポイントが設定できない場合があります。

- 記録媒体：　内蔵フラッシュメモリー（1GB）
- ファイルシステム：　FAT16（ファイルとフォルダの合計数が550個まで認識可能）
- 内蔵リチウムイオン電池：3.7V DC
- 消費電力：　約1.5W（MP3再生時）
- 寸法：　78（幅）×110（高さ）×25.5（奥行）mm（突起部含まず）
- 質量：　220g（リチウムイオン電池を含む。）
- 別売アクセサリー：　ACアダプター（PS-P520）

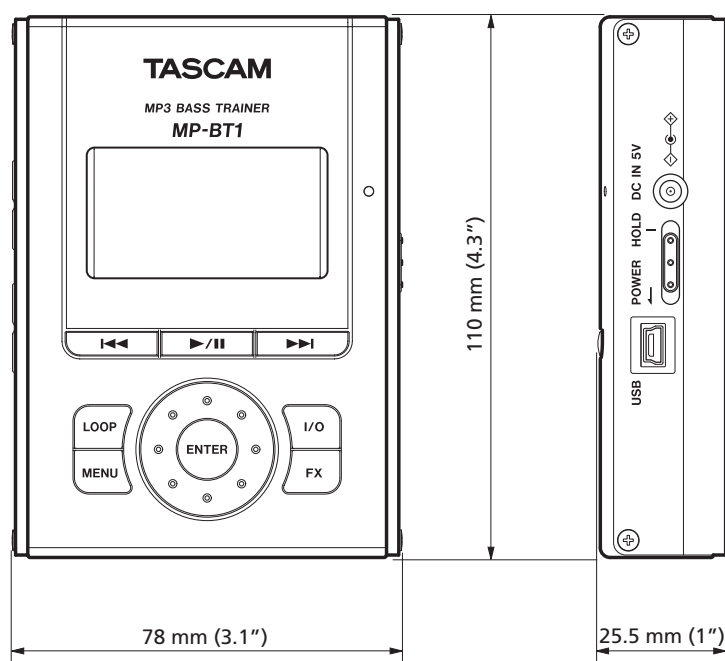
接続するパソコンの条件

- Windowsマシン
  Pentium 300MHz以上
  128MB以上のMemory
  USBポート（推奨：USB2.0、必須条件：500mA Bus Power対応）
- Macintoshマシン
  PowerPC、iMac、G3、G4　266MHz以上
  64MB以上のMemory
  USBポート（推奨：USB2.0、必須条件：500mA Bus Power対応）
- 推奨USBホストコントローラー
  Intel製チップセット
- サポートOS
  Windows ：Windows 2000、XP
  Macintosh ：Mac OS 10.2以降

バックアップ内容

本機は電源オフ時に以下の設定を保持しますので、次回電源をオンにしたときに前回の設定が再現されます。

- EFFECT 画面の設定
- TUNER 画面の設定
- METRONOME 画面の設定
- PB CONTROL 画面の設定
- ループ再生のオン／オフと IN、OUT ポイント設定
- 再生モード
- ミックスバランス
- 電源やバックライトのオートオフ設定
- 最後に再生した曲
- 出力ボリューム設定

寸法図

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。

タスカム営業技術　〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00 ～ 17:00 です。

ティアック修理センター　〒 190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-7

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・ PHS ・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3
http://www.tascam.jp/